

<b>カフェンストロール・ダイムロン・ベンスルフロンメチル粒剤</b> <b>クサトリエース L ジャンボ</b>	<b>取扱メーカー：</b> 三井アグロ <b>原体メーカー：</b> エス・ディー・エス、 エス・ディー・エス、クミカ
<b>成分：</b> カフェンストロール〔酸アミド系 PRTR・1種〕…7.0% ダイムロン〔尿素系〕……………15.0% ベンスルフロンメチル〔スルホニルウレア系〕……1.7%	<b>性状：</b> 淡褐色細粒，水溶性パック入り 1パック30g <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> ——

## 【品目特性】……………

●畦畔から小包装（パック）のまま10a当り10個を湛水した水田に均等に投げ入れる。

●田植後3～7日が使用適期。

●処理時には水深5cm以上を保つ。

●水田に投入されるパックは水面に浮き，パックが水に溶け放出された細粒は自己拡散力により水面を分散しながら崩壊し，有効成分は田面水中に拡散，溶出する。有効成分は水中に均一に拡がり，その後土壌表層に吸着されて処理層を形成し安定した除草効果を発揮する。

●ノビエを始めとする一年生雑草や主要な多年生雑草に優れた効果を発揮する。また，難防除雑草であるクログワイ，オモダカにも効果が期待される。アオミドロ・藻類による表層は離れに対して発防止効果がある。

●ダイムロンはスルホニルウレア系除草剤などの薬害軽減作用が知られており，不良条件下でも比較的安全に使用できる。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

## 【使用上のポイント】……………

●共通注意事項の5．水稲除草剤散布 使用上のポイントを参照。

●散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保つ。

●本剤の使用時期は移植後3日～ノビエ2葉期まで（但し，九州の普通期栽培地帯は2.5葉期まで）に時期を失しないように散布する。

●コウキヤガラ，オモダカ，クログワイ，シズイの防除は，有効な後処理剤と組み合わせて使用する。

●多年生雑草は生育段階により効果にフレが出るので必ず適期に使用する。

雑草名	散布適期
ホタルイ	2葉期まで
ウリカワ	2葉期まで（北陸，近畿・中国・四国，九州の普通期栽培地帯） 発生始期まで（関東・東山・東海・九州の早期栽培）
ミズガヤツリ	2葉期まで（近畿・中国・四国，九州） 発生始期まで（北陸，関東・東山・東海）
オモダカ	発生前（近畿・中国・四国，九州） 発生始期まで（北陸，関東・東山・東海）
ヘラオモダカ	2葉期まで
クログワイ	発生始期まで
ヒルムシロ	発生期まで
セリ	再生始期まで
アオミドロ	発生前

## 【薬効・薬害等の注意】……………

●共通の注意事項5．水稲除草剤散布 薬効・薬害等の注意を参照。

●適用作物（水稲）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

●適用外作物（いぐさ，れんこん，せり，くわい）への薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。これら作物の隣接田で使用する場合は十分注意する。

# 【安全対策上の注意】 .....

- 魚類に影響を及ぼすので、養魚田での使用はさける。
- 水溶性フィルムが破袋し眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。

- 藻類に影響を及ぼすので、使用時は注意する。
- 吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を強く閉じて保管する。また、フィルムが劣化するおそれがあるので下積にならないようにする。

# 【適用と使用法】 .....

作物名	適用雑草名	適用土壌	使用時期	10 a 当り 使用量	使用方法	適用地帯	本剤の 使用回数
移植 水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ (北陸) クログワイ (北陸を除く) オモダカ ヒルムシロ セリ コウキヤガラ (九州) アオミドロ・藻類 による表層はく離 (近畿・中国・四国)	砂壤土 ～埴土	移植後 3 日～ ノビエ 2 葉期 但し、移植後 30 日まで	小包装 (パック) 10 個 (300 g)	水田に 小包装 (パック) のまま 投げ入 れる。	北陸、関東・東山・ 東海、近畿・中国・ 四国の普通期及び 早期栽培地帯、九 州の早期栽培地帯	1 回 ※
			移植後 3 日～ ノビエ 2.5 葉期 但し、移植後 30 日まで			九州の普通期栽培 地帯	

※カフェンストロールを含む農薬の総使用回数 : 1 回

※ダイムロンを含む農薬の総使用回数 : 3 回以内

(育苗箱散布は 1 回以内、本田では 2 回以内)

※ペンシルフロンメチルを含む農薬の総使用回数 : 2 回以内